

第一
章
自

然

第一節 位置と面積

一位置

六・六町歩（一・三七平方キロメートル）、山林一九九七・〇町歩（一九・九七平方キロメートル）、原野三〇七・〇町歩（三・〇七平方キロメートル）、雜種地一五六・九町歩（一・五七平方キロメートル）、その他三七五三・七町歩（三七・五四平方キロメートル）（国有林を含む）となつてゐる。

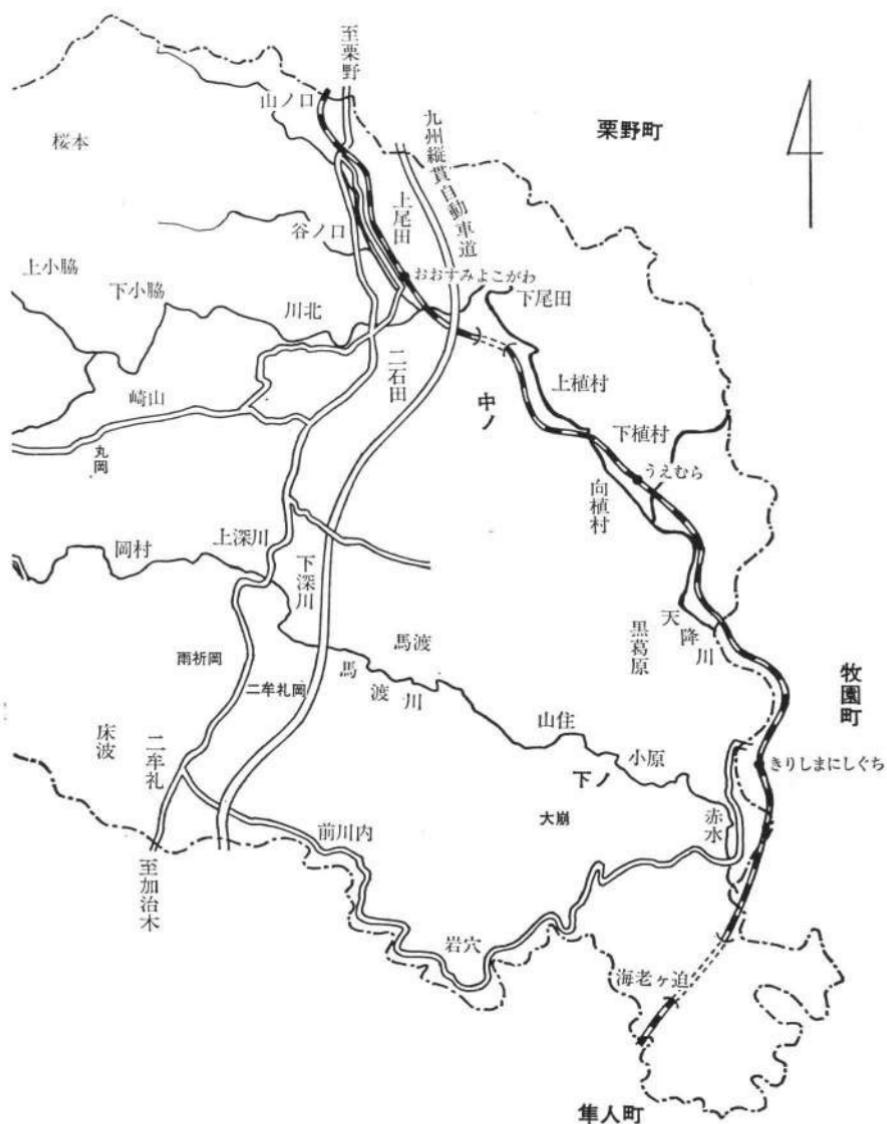
本町は鹿児島県の北部に位置し、東経一三〇度四四分、北緯三一度五〇分のところにあって、東は牧園町、南は隼人町、溝辺町に、西は姶良町、薩摩町、北は栗野町に接している（第1図）。

二面積

総面積は七〇・四五平方キロメートルで、東西約一四・五キロメートル、南北約九・五キロメートルである。

面積の内訳は、平成二年（一九九〇）三月末現在で、田三五二・四町歩（三・五一平方キロメートル）、畑三四一・四町歩（三・四一平方キロメートル）、宅地一三

町全図



第1節 位置と面積

第1図 横川



第二節 地形と気象

一 地 形

本町は鹿児島市から北東へ四六キロメートル、霧島火山群の西麓に位置し、北部と西部の町境の安良岳など四〇〇から六〇〇メートルの山地に源をもつ金山川は、東流したのち北部から南流してきた清水川と横川小学校下で合流し、町の中心部を通って、さらに下植村で万膳川と合流して、南東部の牧園町境へ流れ、日当山を経て錦江湾に注いでいる。また、南は溝辺町境を久留味川が東流している。

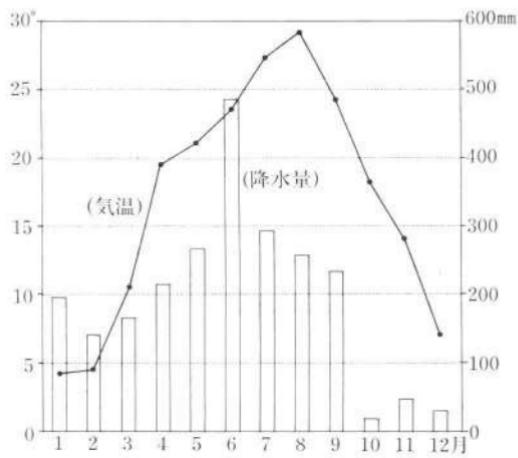
これらの大小の河川は、シラス台地を浸食して浸食谷を形成する一方、台地はこの浸食谷によって、大小の丘陵地帯に分断されている。

町の総面積の七五パーセント以上が山林で、平地が少なく、水田は金山川（天降川）水系の流域に開けている

だけで、それ以外はシラス台地上に畠が散在している。集落も水系に沿った地域に発達している。町の中心は、町役場が所在する市街地である。

二 气 象

気象条件は、年間を通じて比較的温暖であるが、霧島



第2図 月別平均気温と降雨量（昭和61年）

山系の影響を受けて気象の変化が著しく、特に晩春の霜害や梅雨、台風時期に、集中豪雨の被害を受けやすい。

第2図は、昭和六一年度における月別平均気温と降雨量である。この年の平均気温は平年に比べてやや高く、一六・九度で、年間雨量は二三四三ミリメートルである。

第三節 動植物

一 動物

横川町は山林が多く、豊かな自然条件に恵まれ、いろいろな動物が生息している。その主なものを次に挙げる。

1 鳥類

アカシヨウビン、ウグイス、カラス、カワセミ、キジ、キツツキ、コジュケイ、サギ、シジュウカラ、スズメ、セキレイ、タカ、ツバメ、ハト、ヒバリ、フクロウ、ヒヨドリ、ホオジロ、ムクドリ、メジロなど

2 哺乳類

イタチ、イノシシ、ウサギ、コウモリ、サル、シカ、タヌキなど

3 爬虫類

ヘビ、マムシ、トカゲ、アカハラなど

4 昆 虫

アブ、アメンボ、アリ、カブトムシ、カマキリ、カメムシ、カミキリムシ、キリギリス、クワガタムシ、クツワムシ、ゲンゴロウ、コガネムシ、コオロギ、スズムシ、セミ、タマムシ、タイコウチ、チヨウ、テントウムシ、トンボ、ハチ、ハエ、バッタ、ホタルなど

5 魚貝類

以前は川で釣りを楽しむ人が多かつたが、近年河川が汚染され、魚貝類も少なくなり、釣り人あまり見られないようになつた。

アユ、アブラハヤ、ウナギ、エビ、コイ、オイカワ、カマツカ、カワムツ、ドジョウ、ナマズ、フナ、メダカ、カワニナ、シジミ、タニシなど

二 植 物

豊かな雨量と、温暖な気候等の自然条件に恵まれ、植物の種類も多い。

1 樹 木

アケビ、イチイ、イチヨウ、イスマキ、イチゴ、ウ

メ、カシ、カキ、カエデ、クス、クスギ、クリ、シャシヤンボ、スギ、ツツジ、ツバキ、ナラ、ネムノキ、ノイバラ、ヒノキ、フジ、ハギ、ハゼノキ、マツ、ムベ、ムクノキ、モミジ、モミノキ、モッコク、ヤツデ、ヤマモモ、ヤナギ、ヤマザクラ、ヤマアジサイ、ヤマブキ、ヤマブドウ、ユズリハなど

2 自生している草花

アマドコロ、アザミ、イノコズチ、イヌタデ、エビネ、エニシダ、エノコログサ、オキナグサ、オオバコ、オニユリ、オヒシバ、オミナエシ、オシロイバナ、カヤツリグサ、シラン、シュンラン、ジュズダマ、スミレ、ススキ、ネジリバナ、ノゲシ、ノアザミ、ノカンゾウ、ハハコグサ、ヒガンバナ、ヒメジオソ、マントリヨウ、ヤブコウジ、ヨモギ、ヨウシュヤマゴボウ、リンドウなど